

## 出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

### 今 期（平成 2 2 年 1 - 3 月）の 概 要

**調査期間** 平成 2 2 年 3 月 2 5 日～4 月 1 6 日

**対象企業** 調査対象企業数 3 0 社 回答率 2 8 社 （回答率 9 3 . 3 %）  
内訳：建設業 4 社、製造業 6 社、卸売業 2 社、小売業 9 社、サービス業 7 社

### 概 況

- 全業種の今期業況 DI をみると、前期比で $\Delta 1 6 . 0$ （前期調査 $\Delta 4 5 . 8$ ）、前年同期比では $\Delta 1 9 . 2$ （前期調査 $\Delta 5 0 . 0$ ）とマイナス幅が縮小しています。来期業況見通し DI は、先行き不透明な状態が続いているため、今期比で $\Delta 5 7 . 7$ （前期調査 $\Delta 5 0 . 0$ ）とマイナス幅が拡大しています。
- 全業種の今期売上 DI は、前期比で $\Delta 4 4 . 4$ （前期調査 $\Delta 2 8 . 0$ ）とマイナス幅が拡大しましたが、前年同期比では $\Delta 2 1 . 4$ （前期調査 $\Delta 5 0 . 0$ ）とマイナス幅が縮小しています。来期売上見通し DI は今期比で $\Delta 2 9 . 6$ （前期調査 $\Delta 4 8 . 0$ ）とマイナス幅が縮小しており、売上がやや回復するものとみえています。

### 業種別景況調査の主要 DI

#### 1、建 設 業

- ・今期業況 DI が前期比で $0 . 0$ （前期調査 $\Delta 2 5 . 0$ ）とマイナス幅が解消、前年同期比では $\Delta 2 5 . 0$ （前期調査 $\Delta 2 5 . 0$ ）で増減なしとなっています。また、今期売上 DI は前期比、前年同期比ともに $0 . 0$ （前期調査 $\Delta 2 5 . 0$ ）とマイナス幅がなくなっています。公共事業の縮小傾向が続いてはいますが、年度末の季節的な影響で受注が増えたこともあり、管工事業を中心に一時的に回復しています。

- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が拡大し、売上見通し DI も $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）となっています。受注は一転して減少し、採算の悪化などマイナス要因もあり、業況の改善には至らないと予測しています。

## 2、製造業

- ・今期業況 DI が前期比で $66.7$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）、前年同期比では $50.0$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）とマイナスからプラスへと大幅改善となりました。また、売上 DI は前期比で $16.7$ （前期調査 $20.0$ ）とプラス幅がやや縮小し、前年同期比では $50.0$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）とマイナス幅がなくなりプラスに転じました。売上が大きく改善し、全体的な業況も向上したことが伺えます。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 33.0$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）、売上 DI は今期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 20.0$ ）と、先行きについて、慎重な見方をしています。

## 3、卸売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅は大きいままです。売上 DI も前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と、依然として厳しい状況が続いています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $0.0$ ）、売上 DI は今期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が大きくなっており、先行きはさらに厳しくなると懸念しています。

## 4、小売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と増減なく、前年同期比では $\Delta 33.3$ （前期調査 $55.6$ ）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 62.5$ （前期調査 $\Delta 37.5$ ）とマイナス幅が拡大しましたが、前年同期比では $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）とマイナス幅が縮小しています。年末需要の反動から前期比の売上は減少していますが、政府の景気刺激策などの効果により前年同期比の売上は回復しています。
- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と増減なく、売上 DI は $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。デフレや若者の県外流出による消費者人口の減少などを不安視する声が出ています。

## 5、サービス業

- ・今期業況 DI は前期比で△40.0（前期調査△40.0）と増減なく、前年同期比では△40.0（前期調査△50.0）とマイナス幅がやや縮小しています。売上 DI は前期比で△85.7（前期調査△33.3）、前年同期比でも△71.4（前期調査△50.0）とマイナス幅が拡大しています。飲食店を中心に年末需要の反動もあり、前期比の売上が大きく減少しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△50.0（前期調査△50.0）と増減なく、売上 DI は今期比で28.6（前期調査△33.3）とプラスに転じています。観光シーズンに入り、ある程度の需要が見込まれることから売上は増加すると予測しています。

## 設備投資動向

### 1、今期設備投資

- |       |  |
|-------|--|
| 全業種   | 設備投資を実施した事業所の割合は38.2%（前期調査20.0%）で、「車両運搬具」への投資が最も高い割合となっています。 |
| 建設業   | 実施割合が75.0%で、「車両運搬具」の割合が高くなっています。                             |
| 製造業   | 実施割合が66.7%で、「車両運搬具」の割合が高くなっています。                             |
| 卸売業   | 実施割合が0.0%で、投資割合はなしとなっています。                                   |
| 小売業   | 実施割合が11.1%で、「その他」の割合が高くなっています。                               |
| サービス業 | 実施割合が0.0%で、投資割合はなしとなっています。                                   |

### 2、来期設備投資

全業種	計画している事業所の割合は15.4%（前期調査28.0%）と低調で、「機械・備品」への投資割合が高くなっています。
建設業	計画している割合が50.0%で、「車両運搬具」「OA機器」がそれぞれ同率で並んでいます。
製造業	計画している割合が40.0%で、「機械・備品」への割合が高くなっています。
卸売業	計画している割合が0.0%で、投資割合はなしとなっています。
小売業	計画している割合が0.0%で、投資割合はなしとなっています。
サービス業	計画している割合が0.0%で、投資割合はなしとなっています。

#### 経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」が48.1%で、第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で75.0%を占めています。
製造業	第1位が「単価の低下・上昇難」で60.0%となっています。
卸売業	「需要の停滞、受注減少」で100.0%となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で36.4%となっています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で60.0%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。